

宝塚市制70周年記念事業 基本方針（案）

令和5年（2023年）5月

宝塚市



1 はじめに

昭和29年(1954年)4月1日、宝塚町と良元村が合併し、宝塚市が誕生しました。

本市は、阪急電鉄創業者の小林一三氏が宝塚歌劇、住宅開発、温泉リゾート、遊園地、映画撮影所など多岐にわたる事業を起こし、阪神間モダニズムの影響を受けながら、モダンで進取の気風に富んだ「文化芸術のまち」として発展してきました。また、宝塚歌劇の本拠地がある本市は、独自の魅力的な文化を生み出し、人々に夢と感動を与え続けています。そして、令和6年(2024年)4月1日には、市制施行70周年を迎えることとなります。

これまで市民が築き上げてきた宝塚の70年の歴史を大切にしながら、この節目の年を市民と喜び祝うとともに、あらゆる世代の方がこのまちへの愛着や誇りを一層深めることで、第6次宝塚市総合計画に掲げる「共に創り、未来につなぐまち」の実現につなげていきます。

2 基本理念

この記念すべき70周年の節目において、これまでの歩みを振り返り、本市の魅力を確認、再発見することで、ふるさとへの愛着や誇りを育み、未来につなぐ機会とします。

宝塚市制70周年記念事業(以下「記念事業」という。)の展開に当たっては、市民、地域、企業、大学、各種団体、行政などの多様な主体との「協働」、「共創」の視点を大切に、互いに手と手を取り合って共に創り上げていくとともに、その過程で生まれた新しい仲間やつながり、絆を本市の宝物として未来に継承します。

多くの仲間と本市の光り輝く未来の姿を共有、共感することで、日々の暮らしに豊かさを実感できる価値を共創し、本市のさらなる飛躍や発展、躍動に向けた契機とします。

以上のことを踏まえ、キャッチフレーズは「誰もが輝けるまち 宝塚」とし、過去・現在・未来の繋がりを表現する「辿る軌跡(TA)、架ける橋(KA)、未来への光(RA)」の視点を持って事業を展開します。

3 実施方針

基本理念を踏まえ、次の実施方針に基づいて、記念事業を実施します。

- (1) 先人たちが築き上げてきたこれまでの歴史や歩みを市民とともに振り返り、ふるさとへの愛着や誇りを深め、その思いを未来へ継承する。【辿る軌跡(TA)】
- (2) 市民をはじめとした多様な主体との協働、共創の輪をひろげ、にぎわいの創出を図るとともに、まちの魅力をさらに高め、市内外に積極的に発信する。【架ける橋(KA)】
- (3) 次世代を担う子どもたちの夢や希望を育み、未来につながる新たな一歩となるものとする。【未来への光(RA)】

4 実施期間

記念事業は令和6年度（2024年度）の1年間を通じて行うものとし、実施期間は令和6年（2024年）4月1日から令和7年（2025年）3月31日までとします。

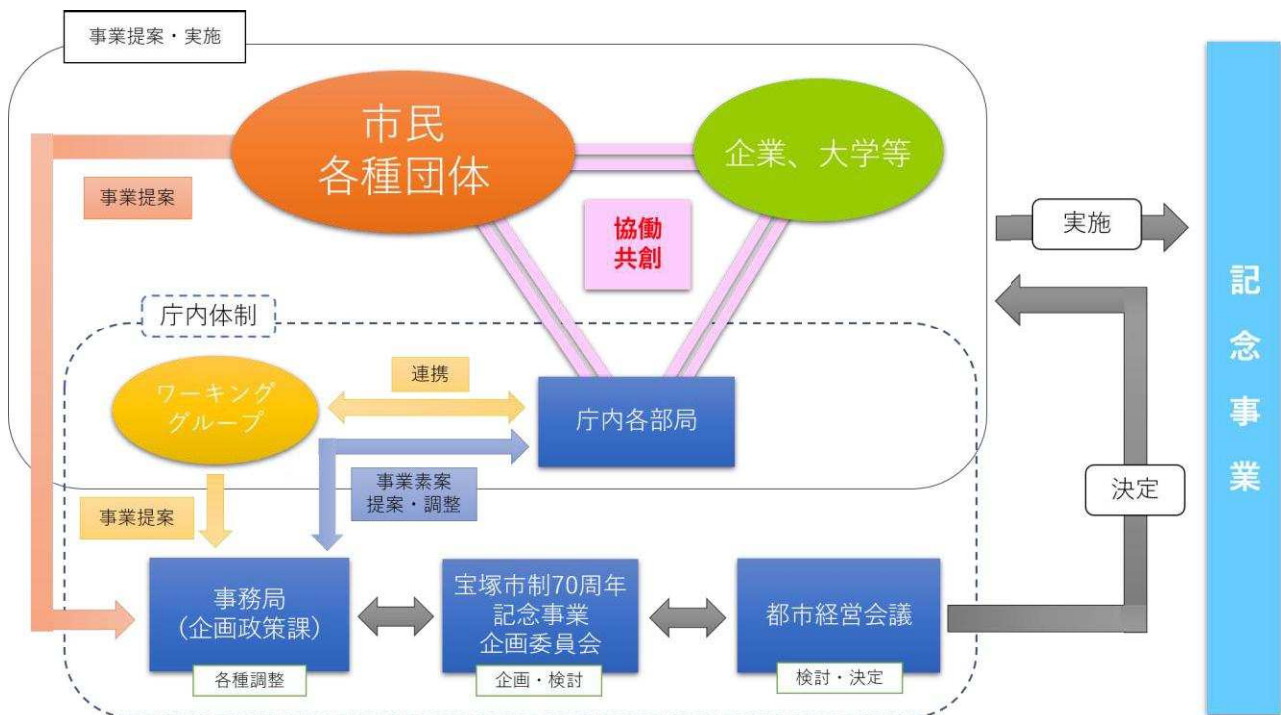
※令和5年度（2023年度）は、70周年への機運を高めるための市民提案等によるプレイベントの実施や、ロゴマーク、ノベルティグッズの製作を行います。

5 実施体制

市全体で祝うため、市民、地域、企業、大学、各種団体、行政などのまちづくりに関わる多様な主体が連携、協働し、記念事業を共に創り上げます。

また、庁内では各部局からの提案のほか、若手職員を中心とした「宝塚市制70周年記念事業ワーキング・グループ」を発足し、記念事業の企画等を行います。

市民、各種団体、ワーキング・グループ等から提案があった事業案を「宝塚市制70周年記念事業企画委員会」で実施に向けた企画、検討を行い、「都市経営会議」において決定することとします。



基本方針のイメージ

